

演習シート

ケース

利用者であるMさん（女性、97歳）が食事中、口から泡を出していたことに介護職員が気付き、吸引の処置をしました。

その後、再びMさんが口から泡を出している様子が発見され、呼吸が苦しそうな様子でベッドの辺りに軽いチアノーゼがみられました。このとき、他の入所者が吸引機を使用していたため、介護職員らは、Mさんの上体を前かがみにして、胃の辺りにこぶしを押し付けたり、背中をたたいたりして、喉に詰まった物を吐かせるようにしました。

すると、Mさんは、幾らか嘔み砕かれていたものの、形が残っていたかまぼこ片一つを唾液とともに吐き出しました。Mさんは、問いかけに応じるようになり、徐々に顔色が赤みを帯びてきました。

その後は介護職員が常時Mさんのそばに付いて様子を見ていたわけではなく、他の入所者の介助をしながら様子をうかがうという程度でした。その後、Mさんが顔面蒼白でぐったりしている様子を介護職員が発見しました。その後、介護職員は救急救命措置をし、Mさんの喉の奥に、かまぼこ片一つをさらに発見し取り出しましたが、その後、死亡しました。